

大都市近郊に残る自然海岸

いしかり博物誌の執筆陣に、海浜植物保護センターの前野華子さんが加わりました。これまで森林の研究をしてきた生態学の専門家です。

いしかり博物誌の執筆陣に、海浜植物保護センターの前野華子さんが加わりました。これまで森林の研究をしてきた生態学の専門家です。

石狩砂丘は、小樽の銭函大浜から厚田の無煙浜まで延長約30キロメートルにわたって連なる、道内でも道北の稚咲内砂丘に次ぐ第二の規模の自然海岸砂丘です。砂丘は、波打ち際から内陸へ向かって約200メートル付近で最も高くなり、ここを境に海側には海岸草原、陸側にはカシワ主体の海岸林が分布します。海岸草原の中でも、海に近い部分には、ハマニンニク、コウボウムギといった不安定な砂地に適応した植物が見られます。海から離れ砂地が安定してくる部分には、ハマナス、ススキをはじめ、ハマエンドウ、エゾスカシユリ、エゾカワラナデシコ、コガネギクなど多様な植物種が見られ、特に六七月・九月の花の彩りの美しさは、車を止めて見入ってしまうほどです。

さて、海岸林は、砂丘の頂付近から人の背丈ほどのカシワで始まります。内



提供 北海道環境科学研究所センター

初夏、海岸各地でハマナスが最も咲き誇る時期、本町から新港へ向かって車を走らせる。二~三キロメートルほど走ったあたりで車を止め、港へ向かって左手の砂丘斜面をかけ上がる。振り返れば、海岸草原の中に点々と咲くエゾスカシユリの朱色の花が目に入り、その向こうには真っ青な海。そして、海とは反対側から聞こえてくるカツコウの声に誘われて顔を向けると、広大なカシワの林が目に飛び込んでくる。そう、この砂丘の頂は、石狩浜の雄大な自然を満喫する絶好のポイントなのです。

石狩砂丘は、小樽の銭函大浜から厚田の無煙浜まで延長約30キロメートルにわたって連なる、道内でも道北の稚咲内砂丘に次ぐ第二の規模の自然海岸砂丘です。砂丘は、波打ち際から内陸へ向かって約200メートル付近で最も高くなり、ここを境に海側には海岸草原、陸側にはカシワ主体の海岸林が分布します。海岸草原の中でも、海に近い部分には、ハマニンニク、コウボウムギといった不安定な砂地に適応した植物が見られます。海から離れ砂地が安定してくる部分には、ハマナス、ススキをはじめ、ハマエンドウ、エゾスカシユリ、エゾカワラナデシコ、コガネギクなど多様な植物種が見られ、特に六七月・九月の花の彩りの美しさは、車を止めて見入ってしまうほどです。

さて、海岸林は、砂丘の頂付近から人の背丈ほどのカシワで始まります。内

これらの海岸草原やカシワ林には、大コロニー（巣）をつくるエゾアカヤマアリや、キタホウネンエビをはじめ稀少な動植物も複数生息します。石狩湾新港で分断されてしましましたが、今でも石狩砂丘は全国的にも数少なくなった自然豊かな海浜地です。砂丘植生に対する自動車による踏みつけや海浜植物の乱採があとを絶ちませんが、この貴重な自然をしっかりと保全し、後世に残していくなければならないと思うのです。

陸へ向かうにつれてカシワは樹高を高くし、次第にミズナラなど他の広葉樹が混ざります。この天然の海岸カシワ林は、世界的にもトップクラスの規模と言われています。

これらの海岸草原やカシワ林には、大コロニー（巣）をつくるエゾアカヤマアリや、キタホウネンエビをはじめ稀少な動植物も複数生息します。石狩湾新港で分断されてしましましたが、今でも石狩砂丘は全国的にも数少なくなった自然豊かな海浜地です。砂丘植生に対する自動車による踏みつけや海浜植物の乱採があとを絶ちませんが、この貴重な自然をしっかりと保全し、後世に残していくなければならないと思うのです。



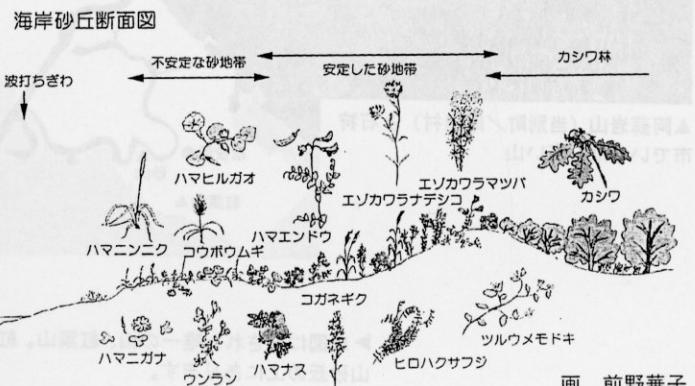
■文化財・博物館開設準備室 ☎ 72-6123
e-mail: bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

■海浜植物保護センター ☎ 60-6107
(冬期は「みどりの課」 72-6122)
e-mail: hamanasu@guitar.ocn.ne.jp

(前野華子)



砂丘頂上付近にて。エゾスカシユリの花の奥にカシワ林が広がる。



画 前野華子